

平成 27 年度

第 54 回全国七大学総合体育大会体操競技 競技要項

主催 北海道大学体育会 東北大学学友会体育部 東京大学運動会 名古屋大学体育会
京都大学体育会 大阪大学体育会 九州大学体育総部

主管 東北大学 学友会体操部

協力 宮城具体操協会

特別協賛 一般社団法人 学士会

1.期日 9月11日(金)~13日(日)(11日は練習日)

2.会場 仙台市体育館
仙台市太白区富沢 1-4-1
TEL 022-244-1111

3.参加資格

(1) 七大学(北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学)に学籍を有し、在学期間が48か月未満の者。

(2) 七大学体操部の関係者で、(1)に該当しない者。オープン参加のみこれを認める。

4.参加者

(1) チーム参加

- ・七大学は各大学1チームずつの参加を認める。男子は5,6名、女子は3,4名とする。
- ・いかなる場合も男子団体4名以下、女子団体2名以下の場合、団体参加を認めない。
- ・チームメンバーは七大学に学籍を有する者に限る。

(2) 個人参加

- ・団体戦に参加しない者はすべて個人参加とする。
- ・学外参加者はオープン参加とする。
- ・オープン参加者の点数は個人総合・種目別選手権の順位から除き、表彰もされない。

5.選手変更

選手の変更は12日の受付までに選手変更用紙を提出すること。

6.新技申請

新技申請は11日の受付までに新技申請用紙を提出すること。

7.競技方法

(1) 適用規則

- ・男子は2013年度版採点規則、2013年度内規および操競技委員会情報最新号(22号)を適用する。
- ・女子は、2013年版採点規則(変更規則Ⅱ)および体操競技委員会情報最新号(22号)を適用する。
- ・団体および個人の開始種目は本部において決定する。個人の試技順は繰り上がりとする。

(2) 競技種目

- ・男子は床、鞍馬、吊輪、跳馬、平行棒、鉄棒の6種目にて競技する。
- ・女子は跳馬、段違平行棒、平均台、床の4種目にて競技する。

(3) 採点方法

- ・採点は男子競技、女子競技ともにD1兼E1、E2の二審制で行う。

(4) 順位の決定

- ・男子団体総合選手権：各種目の上位5名の得点の合計得点により決定する。
- ・女子団体総合選手権：各種目の上位3名の得点の合計得点により決定する。
- ・個人総合選手権：全種目の総合点により決定する（オープン参加者を除く）。
- ・種目別選手権：各種目の得点により決定する（オープン参加者を除く）。

※男子団体総合選手権の結果を第54回全国七大学総合体育大会体操競技の得点とする。得点は優勝10pt、二位8pt、三位6pt、四位4pt、五位3pt、六位2pt、七位1ptとする。該当団体なしもしくは得点なしは0ptとする。

(5) 表彰

- ・団体総合選手権：1~7位に賞状を授与する。優勝校はトロフィーも授与する。
- ・個人総合選手権：1~6位に賞状を授与する。
- ・種目別選手権：1~6位に賞状を授与する。
- ・新人戦個人総合選手権：各大学の一年生1~6位に賞状を授与する。一年生で個人総合選手権に入賞したものはそちらを優先し、順位の繰り上げをおこなう。
- ・新人戦種目別選手権：各大学の一年生1~6位に賞状を授与する。一年生で各種目の種目別選手権に入賞したものはそちらを優先し、順位の繰り上げをおこなう。

8.補助役員

各大学は下記の通りの補助役員を派遣すること。

【12日】北大2名、東北大2名、東大3名、名大2名、京大2名、阪大2名、九大3名

※男子個人A、B班以外から派遣をおこなうこと。

【13日】北大2名、東北大1名、東大7名、名大2名、京大1名、阪大7名、九大7名

※男子団体、女子個人、女子団体班以外から派遣をおこなうこと。

※この審判割り当ては暫定版である。

- ・ 補助役員は補助役員会議に参加すること。
- ・ 補助役員会議はタイムスケジュール（別紙）に記載された時間帯に本部前にておこなう。
- ・ 仕事内容はゆか、跳馬の線審、得点板表示、得点記録・計時のいずれかである。
- ・ 補助役員に服装の指定はない。
- ・ 補助役員は両日同じ人物を派遣してもかまわない。

9.受付

- ・ 受付は体育館の開場後、第一競技場入口前にて 30 分間おこなう。
- ・ 各大学は会場に到着次第すぐに受付をおこなうこと。
- ・ 受付は各大学の出席も兼ねているため必ずおこなうこと。
- ・ 受付時に新技申請用紙、選手変更用紙、プラカードを回収する。選手変更用紙、プラカードは 12 日（土）まで受け付けるが、新技申請用紙は 11 日（日）までとなっているので注意すること。
- ・ いかなる理由でも指定時間以降の提出は一切受け付けない。
- ・ 新技申請用紙、選手変更用紙は部報に添付する。
- ・ 選手宣誓の打ち合せをするため、前年度の男女団体総合優勝校の主将はそれぞれ 11 日の受付時に集合すること。

10.その他競技に関すること

- ・ ゼッケンは各大学で準備すること。寸法は 12cm×15cm で男子は黒字、女子は赤字でゼッケンナンバーを記入すること。ゼッケンナンバーは部報にて発表する。
- ・ 霧吹きは各大学から持参したものを使ってもよい。ただし、その場合霧吹きに大学名の記載をすること。
- ・ 炭酸マグネシウム、音楽用デッキ、応急処置の氷は本学が準備する。
- ・ 各大学の音響機材の持ち込みは可とするが音響機材に問題が生じた場合、本学は一切の責任を負わない。
- ・ セッティング、カッティングは各大学必ず参加すること。
- ・ 各選手は学生証を持参すること。本大会実行委員本部による本人証明確認が行われる可能性がある。

11.参加について

- ・ 参加費は以下の通りである。各大学は、本大会の参加人数を確認し、必要な代金を下に示す口座へ 8 月 20 日までに振込みをおこなうこと。

大会参加費 1600 円

※振込みは各大学の体操部とわかる名義で振り込むこと。

※締切期日以降の欠場は認めるが原則として参加費は返還しない。

試 合 規 則

1.男子競技規則

・男子競技は2013年度採点規則と2013年度内規および操競技委員会情報最新号(22号)に加え、以下のローカルルールを設定する。

(1) 終末技について

終末技の難度によって以下のように要求グループVの加点をおこなう。

- ・A 難度…特別要求のグループVから0.10の加点をおこなう。
- ・B 難度…特別要求のグループVから0.20の加点をおこなう。
- ・C 難度…特別要求のグループVから0.30の加点をおこなう。
- ・D 難度以上…特別要求のグループVから0.50の加点をおこなう。

(2) 技の認定と難度の認定について

次頁の技についてあらかじめ難度・要求の認定をおこなう。ただし相応の実施減点が課される。これ以外に認定を希望する技がある場合は新技申請用紙に記入の上受付に提出すること。

(3) 鞍馬の終末技のやり直しについて

鞍馬の終末技のやり直しは何度でも認めるが、相応の実施原点が課される。

(4) 終末技の加点について

鞍馬を除く5種目において終末技の着地が止まった場合、最終的なEスコアから0.1の加点をおこなう。

(5) その他

- ・吊輪、鉄棒に加え、跳馬、平行棒においても補助者を1人まで認める。
- ・危険な実施にともない補助者が選手の身体に触れてもその技の難度不成立と実施減点は課されない。
- ・吊輪、跳馬、鉄棒においてピタリマットの使用を許可する。
- ・ゆかにおける二回以上の宙返りや二回宙返りにひねりをともなう技、および宙返り転系の技について、その技の実施においてのみ着地マットの使用を許可する。これによる実施減点は課されない。着地マットの設置および撤去は各大学の監督もしくはチームリーダーのみおこなうことができる。
- ・技数が7技に満たない演技について、審判は演技の修練度によって相対的な評価をおこなうことができる。

男子難度・要求認定一覧

種目	技名	難度	要求グループ
ゆか	側転	A	-
	ロンダート	A	-
	倒立前転(倒立静止なし)	A	-
	後転倒立(ひねり/倒立静止なし)	A	-
	前屈柔軟	A	-
	脚前拳(2秒静止)	A	-
鞍馬	四つ足交差	A	-
	サイドサークル	A	-
	旋回を二周以上伴わず下向き下り	A	V
吊輪	屈腕翻転逆上がり倒立	C	II
	屈腕後ろ振上がり倒立	C	II
	前方(抱え込み・屈身・伸身)宙返り下り	A	V
	後方(抱え込み・屈身・伸身)宙返り下り	A	V
跳馬	開脚とび	D.Score 1.0	
	閉脚とび	D.Score 1.0	
	台上前転	D.Score 1.0	
平行棒	後ろ振り上がり支持	A	-
	棒下宙返り直接腕支持	A	IV
	前方(抱え込み・屈身・伸身)宙返り下り	A	V
	後方(抱え込み・屈身・伸身)宙返り下り	A	V
鉄棒	前方支持回転	A	-
	後方支持回転	A	-
	蹴上がり支持	A	-
	前方半車輪	A	-
	後方半車輪	A	-
	足裏支持回転(ひねり)倒立	A	III
	アドラー45°未満	B	IV
	足裏支持回転(ひねり)下り	A	V
	前方(抱え込み・屈身・伸身)宙返り下り	A	V
	後方(抱え込み・屈身・伸身)宙返り下り	A	V

2.女子競技規則

・女子競技は2013年度採点規則と2013年度内規および操競技委員会情報最新号(22号)に加え、以下のローカルルールを設定する。

(1) 短い演技

技数の少ない演技についてD審判は適切な減点をおこなう。

- ・6技以上の実施…最終的な算出スコアを決定点とする。
- ・5技の実施…最終的な算出スコアから4.00の減点を課し、これを決定点とする。
- ・4技の実施…最終的な算出スコアから5.00の減点を課し、これを決定点とする。
- ・3技の実施…最終的な算出スコアから6.00の減点を課し、これを決定点とする。
- ・2技の実施…最終的な算出スコアから7.00の減点を課し、これを決定点とする。
- ・1技の実施…最終的な算出スコアから8.00の減点を課し、これを決定点とする。
- ・技がない…決定点を0.00とする。

(2) 技の認定と難度の認定について

次頁の技についてあらかじめ難度・要求の認定をおこなう。ただし相応の実施減点が課される。これ以外に認定を希望する技がある場合は新技申請用紙に記入の上受付に提出すること。

(3) 跳馬の採点について

二回跳躍を実施し、点数の高い方を決定点とする。

(4) 終末技について

終末技の難度によって以下のように要求グループVの加点をおこなう。

- ・終末技がない、A難度…特別要求のグループVから0.00の加点をおこなう。
- ・B難度…特別要求のグループVから0.30の加点をおこなう。
- ・C難度以上…特別要求のグループVから0.50の加点をおこなう。

女子難度・要求一覧

種目	技名	難度	要求グループ
跳馬	開脚とび	D.Score 1.0	
	閉脚とび	D.Score 1.0	
	台上前転	D.Score 1.0	
段違平行棒	(抱え込み)前方足裏支持回転	A	-
	(抱え込み)後方足裏支持回転	A	-
	低棒蹴上がり	A	-
	高棒蹴上がり	A	-
	高棒から(抱え込み)後方足裏支持回転下り	A	V
平均台	両足踏切(抱え込み・伸身)とび	A	-
	片足立ち 1/2 ターン	A	-
	背倒立	A	-
	片足水平バランス・アラベスク・Y字バランス	A	-
ゆか	側転	A	-
	倒立前転	A	-

(5) 特別要求について

特別要求を以下のように変更する。

【段違い平行棒】

グループⅠ：高棒から低棒へ移動する空中局面を伴う技

グループⅡ：空中局面を伴う技

グループⅢ：異なる握り（振り上げ倒立、開始技と終末技は除く）

グループⅣ：空中局面を伴わない、360度以上のひねりを伴う技（中技のみ）

グループⅤ：終末技

※ひとつの技でグループⅠ、Ⅱを同時に満たすことはできない。

※グループⅠの要求を満たしたあと、高棒から低棒へ移動する空中局面をともなう技を再度おこなった場合、これをグループⅡの技として認定してよい。

【平均台】

グループⅠ：180度回転（前後／左右）または開脚屈身姿勢のリープ、ジャンプ、ホップを含む、少なくとも2つの異なる技からなるダンス系の組み合わせ

グループⅡ：ターン（グループ3）

グループⅢ：1つの宙返りを含む、少なくとも2つの技からなるアクロバット系シリーズ

グループⅣ：方向の異なる（前方／側方と後方）アクロバット系の技

グループⅤ：終末技

【ゆか】

グループⅠ：1つは180度の前後／左右開脚または開脚屈身姿勢を持つ、2つの異なるリープまたはホップ（難度表にある）で構成された直接または間接（ランニングステップ、小さなリープ、ホップ、シャッセ、シェネターンが入る）の組み合わせでの移動

グループⅡ：前方／側方と後方の宙返り

グループⅢ：ひねり（1回ひねり以上）を伴う宙返り

グループⅣ：二回宙返りまたは2つ以上の異なる宙返りを含む1つのアクロライン

グループⅤ：終末技

(6) その他

- ・危険な実施にともない補助者が選手の身体に触れてもその技の難度不成立と実施減点は課されない。
- ・跳馬、段違い平行棒、平均台においてピタリマットの使用を許可する。
- ・ゆかにおける二回以上の宙返りや二回宙返りにひねりをともなう技について、その技の

実施にのみ着地マットの使用を許可する。これによる実施減点は課されない。着地マットの設置および撤去は各大学の監督もしくはチームリーダーのみおこなうことができる。

- ・技数が 7 技に満たない演技について、審判は演技の修練度によって相対的な評価をおこなうことができる。

